
トラック運転手のこあい話し

まおー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トラック運転手のこあい話し

【コード】

N3892P

【作者名】

まおー

【あらすじ】

夜中にトラック運転手の友人に送った30分でかんがえたネタです（笑）

(前書き)

判断基準わかんないけど、自分では少しグロいけど、部屋で読む分には怖くない(笑)

ある夏の日、トラックの運転手をしているAさんは一人で深夜の山道を眠気を我慢しながら走っていました。

このままでは事故を起こしかねないと気合いを入れ直し、ヘッドライトに照らされる道に視線を向けると、もう直ぐそこ、ブレーキを踏んでも間に合わない所に人影が見え、慌ててブレーキを踏み込み、恐る恐るドアを開け、車の後ろや下を見てみましたが、誰も居ません。

しかし車のバンパーにはべっとり血のりがついていたので怖さを振り切りバンパーを掃除して帰途につきました。

怖い体験をしたものの、血のりがついていたので仲間に話す事も出来ず、それ以来、夜はなるべく山道などを通らないようにして、いつしか夏も終わりに近づいて行きました。

しかし、数日も過ぎた頃から何故か車から腐ったような、嫌な臭いが漂い始めました。

仲間に何度も言われ、自分も気味が悪いので、何度も何度も洗車したのですが、腐ったような嫌な臭いは一切に消えませんが。

諦めかけたある日、夏の終わりと言うことで、会社から車を車検に出すよう言われたAさんは、近場の車検場に車を持っていき、あの夏の日の方が気になって車検を見学させてもらいました。

この車には何かがあると、怖い想いを押し殺して車検を見学していると、車の下に潜り込んだ作業員が「ひっ！」と引きつった悲鳴をあげ、逃げるように車の下からでてきて、Aさんの腕を力の限り握

って口をパクパクと声にならない声でAさんに訴えます。

Aさんは作業員の様子を見て怖くなり、車の下に潜りたくはなかったのですが、作業員に急かされ恐る恐る車の下へ潜り込み、ライトを付けて車の底をみると目玉は落ちくぼみ、唇は破けて所々腐り、恐怖に歪んだ顔の老人が車の底に張り付き、酷い腐臭を放っていました。

(後書き)

読了ありがとうございます。〇(―)―*()〇
誤字はないと思いますが(じ、自信過剰とか思わないでよねっ /
 /) あっ たら教えて下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3892p/>

トラック運転手のこあい話し

2010年12月9日04時23分発行